

『目指せスマートカフェテリア』

—大学生活の充実度アップ、カフェ AI 革命—

c 1 2 4 0 4 0 5

大滝樹音

テーマ

「学外の人にうらやましいと思われるようなカフェテリアを提案する」

① 初めに

大学生活の中でカフェテリアは憩いの場であり、食事をしたり、友達と談笑したり、勉強したりする学生にとって必要不可欠の場所だ。そんなカフェテリアについて、今ある公益大学のカフェテリアをより良い場所にするには、どうしたらいいかを考えた。

② 観察とアンケート結果

実際に観察とカフェのメニューを体験した公益大一年生 5 名へのアンケートを行った。結果は以下の通りである。

～いい点～

- ・ カフェ全体がきれいで開放感がある
- ・ 週ごとにメニューが変わるため飽きない
- ・ ランチメニューとカフェメニューがあり時間帯によって変わるので楽しみ
- ・ お昼の時間が過ぎると人が減るため勉強もしやすい
- ・ 地域の方も利用していて機会があれば交流することができる

～改善点～

- ・座席の確保が難しいときがある
- ・一年生にとっては先輩の隣に座るのが緊張する
- ・ピークの時間には食券機に長い列ができる

③ 共感マップ

アンケートから学生がカフェテリアに求めているものとして

- ・開放感がありきれいで、誰でもどんな時に使える場所
- ・時間や季節を大切にしたおいしい食事すぐに食べることができる場所
- ・地域の人や先輩、友達など幅広い人と交流できる場所

という大きく分けて三つに分けられる。

④ プロトタイプの提案

1. コンセプト

「開かれた大学」：大学外の地域の人なども自由に利用できる、開放的な空間

を提供する。

「季節を感じる食体験」：その時期にあった料理を週替わりで提供し、その時

間に合ったメニューを時間帯ごとに提供する。

「居心地のいい空間」：勉強や読書、友人との談笑など様々な用途で使える居

心地の良い空間を提供する。

「どんな時間でもすぐに満足」：特にランチの時間にはカフェテリアは、混ん

でしまうがそこを解消し自分が好きな時にすぐに心もおなかも満足できるような場所を提供する。

2. プロダクト

座席の予約制：フリー席と予約席を分けることで確実に使いたい場合も迷うことなく使うことができ予約をしていなくても自由に使うことができる。混雑を避けより気軽に使うことができるようになる。

モバイルオーダー制：スマートフォンのアプリから食券機に並ぶことなくスマートかつじっくり食べたい料理を選んで食べることができる。

食事の配達制：カフェ内であれば飲食店にいるような配膳ロボットが、大学内のカフェ外であればウーバーイーツのような人が食事を運んでくれる。そうすることで、カフェ外でも自分の好きなところでカフェのメニューを食べることができるようになる。

コンセントやフリーWi-Fi：これらがあることで食事以外にも利用したくなりカフェメニューの利用者も増加すると考えられる。

⑤ 期待される効果

この提案により、以下の効果が期待できる。

大学外の人が大学に親しみを持つことができる：大学のカフェテリアを利用しやすくすることで大学に対して親しみや興味を持ってもらえる。また、学生と地域の

方との交流も期待できる。

学生が多種多様な用途で気軽に心地よく利用することができる：カフェを食事するだけの場ではなく交流をしたり勉強をしたり、逆に空間を使うのではなく食事だけを自分の好きな場所で楽しむことができる。学生の大学の充実度をアップできる。

⑥ まとめ

学生にも地域の方にも過ごしやすいカフェで、学外の人にもうらやましいと思われるカフェテリアにするには、以上のような改善ができると思った。そして、このレポートを作成するにあたって、より一層カフェの重要性を知ることができた。